

米国 弱いながらも緩やかな拡大基調(15年9月鉱工業生産)

発表日：2015年10月16日(金)

～7－9月期の製造業生産はプラス幅を拡大～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治

03-5221-5001

鉱工業生産 (Industrial Production and Capacity Utilization)

鉱工業生産			製造業 (NAICS)	鉱業	公益	ハイテク 関連	除ハイテク 関連	自動車関連	設備稼働率	製造業 (NAICS)	生産能力
15/01	▲0.3	(+4.5)	▲0.3	▲1.6	+1.5	▲0.3	▲0.3	▲0.5	+78.7	+76.9	+0.1
15/02	▲0.2	(+3.5)	▲0.4	▲1.7	+3.5	▲0.3	▲0.5	▲1.9	+78.4	+76.5	+0.1
15/03	▲0.2	(+2.5)	+0.2	▲0.4	▲2.5	▲0.5	+0.2	+3.3	+78.2	+76.6	+0.1
15/04	▲0.2	(+2.1)	+0.4	▲1.3	▲2.6	+0.1	+0.4	+1.7	+78.0	+76.8	+0.1
15/05	▲0.4	(+1.3)	▲0.0	▲2.2	▲0.5	▲0.7	+0.0	+2.4	+77.6	+76.7	+0.1
15/06	▲0.0	(+0.9)	▲0.2	▲0.0	+0.9	+0.5	▲0.1	▲4.5	+77.5	+76.4	+0.1
15/07	+0.8	(+1.3)	+1.0	+1.1	▲1.4	+0.5	+1.0	+10.6	+78.0	+77.2	+0.1
15/08	▲0.1	(+1.1)	▲0.4	▲0.0	+1.3	▲0.4	▲0.4	▲5.4	+77.8	+76.8	+0.1
15/09	▲0.2	(+0.4)	▲0.1	▲2.0	+1.3	▲0.5	▲0.1	+0.2	+77.5	+76.6	+0.1

9月の鉱工業生産は前月比▲0.2%と2ヶ月連続の減少

15年9月の鉱工業生産は、前月比▲0.2%と7月の高い伸びの影響もあり2ヵ月連続の減少となったが、7、8月合計で0.2%ポイント上方改定されたことを考慮すれば市場予想(▲0.2%)よりは良い内容。公益が気温の上昇を受け前月比+1.3%と高い伸びを維持したほか、製造業がドル高、新興国経済の減速の影響を受けながらも自動車の拡大により同▲0.1%と減少幅を縮小した。一方、鉱業が原油価格下落による石油掘削などの落ち込みを背景に同▲2.0%とマイナス幅を拡大。

製造業生産では、一次金属、自動車・同部品、繊維、アパレル、化学が増加に転じた。一方、木材、非鉄、半導体の不振が続くコンピューター・電子機器、印刷、プラスチック・ゴムが減少に転じた。需要の堅調な自動車を除く製造業生産は前月比▲0.2%と減少しており、ドル高や在庫の積み上がりなどを背景に、自動車以外で調整色を強めている。稼働率をみると、鉱工業全体で77.5%と市場予想の77.4%を上回ったが低下した。製造業は76.6%に低下した。

3か月前対比、前期比でプラス幅を拡大

3ヶ月移動平均・3ヶ月前対比年率では、鉱工業生産が+1.9%(前月+0.5%)、製造業生産が+2.5%(前月+2.0%)とプラス幅を拡大しており、9月にかけて拡大モメンタムが強まった。四半期でも、7－9月期の鉱工業生産は前期比年率+1.9%(4－6月期同▲2.4%)と拡大に転じた。製造業生産は自動車の拡大等により前期比年率+2.5%(4－6月期同+1.4%)とプラス幅を拡大しており、生産活動は緩やかな拡大基調を維持したことを示している。

